

滞留水の貯蔵及び処理の状況概略

滞留水の貯蔵状況(11月26日時点)

東京電力株式会社
平成25年11月28日

①建屋内滞留水水位及び貯蔵量

- ・建屋内滞留水水位は運転上の制限を満足
- ・処理装置(第二セシウム吸着装置)は運転中

②廃棄物発生量

- ・除染装置停止中のため、廃スラッジ貯蔵量は変動なし

③処理水タンク貯蔵量

- ・淡水化装置による処理により、淡水受タンク及び濃縮塩水タンク貯蔵量は変動あり
- ・蒸発濃縮装置は全台停止中

④5、6号機滞留水貯蔵量

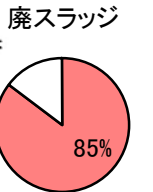
- ・構内散水によりF・Hエリア等タンク貯蔵量は変動あり

①建屋内滞留水水位及び貯蔵量

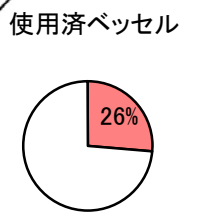
施設	貯蔵量	T/B建屋内水位
1号機	約13,700m ³	OP.2,753
2号機	約21,200m ³	OP.3,002
3号機	約22,800m ³	OP.2,940
4号機	約17,300m ³	OP.2,881
合 計	約75,000m ³	

貯蔵施設	貯蔵量	水位
プロセス主建屋	約14,660m ³	OP.4,111
高温焼却炉建屋	約3,320m ³	OP.2,167
合 計	約17,980m ³	

②廃棄物発生量



保管量:597/700[m3]※3

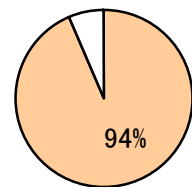


保管量:660/2514体 ※1

- 中低レベル(既設)
- 中低レベル(追設予定)
- 高レベル(既設)
- 高レベル(追設予定)
- 移送ホース布設ルート
- 淡水注水ルート

④5、6号機滞留水貯蔵量

タンク総容量



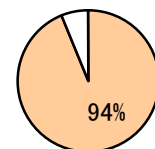
水量:410204/437900[m3] ※2,3,6

貯蔵量合計(③+④)

- ※1 第二セシウム吸着装置使用済ベッセル及び多核種除去設備の保管容器、処理カラム及びモバイル式処理装置使用済ベッセルを含む
- ※2 装置稼働中につき水位が静定しないため参考扱い
- ※3 貯蔵容量は運用上の上限を示す(タンクの貯蔵容量は10の位を切り捨てして表記)
- ※4 Hエリアのタンク(約3,000m³分)を5,6号機滞留水に使用
- ※5 多核種除去設備(ホット試験中)の処理済水を貯蔵するが、タンクの運用状況に応じて淡水や濃縮塩水を貯蔵
- ※6 地下貯水槽を含まない。ろ過水タンクの貯蔵容量(4,600m³)を含む

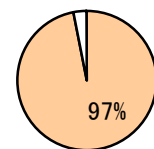
③処理水タンク貯蔵量

淡水受タンク



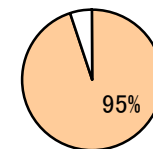
水量:29481/31400[m3] ※2,3

濃縮廃液貯槽



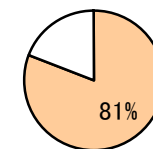
水量:9209/9500[m3] ※2,3

濃縮塩水受タンク



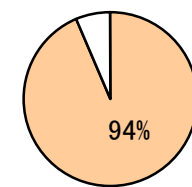
水量:322276/339700[m3] ※2,3,6

処理水貯槽
(多核種除去設備処理済水)



水量:31083/38400[m3] ※2,3,5

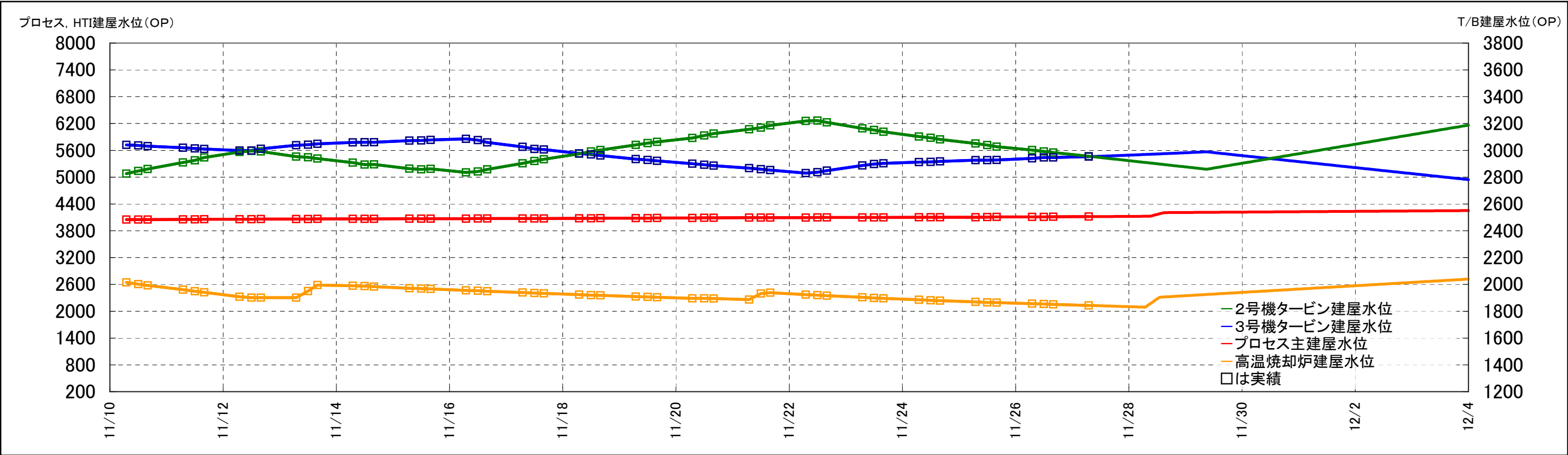
処理水タンク総容量



タンク堰内水の一時的貯留量

- ・ノッチタンク群 約3300/約4000[m3]
- ・地下貯水槽 iv 約1400/約4000[m3]
- ・地下貯水槽 vii 約2100/約4000[m3]

2, 3号機タービン建屋及びプロセス主建屋, 高温焼却炉建屋の水位グラフ



処理装置の稼働状況

